

介護ロボット導入計画

社会福祉法人友愛会 特別養護老人ホーム 山県グリーンビレッジ

【介護ロボット導入に至る経緯】

利用者が重度化しており、身体状況あるいは認知症による判断能力の低下によりベッドから離床時に危険性の高い利用者が多く入所している。転倒リスクが高い利用者や新規入所利用者の行動分析に床置きセンサーマットを使用するケースが多いが、反応不良や断線による故障などで正確に作動しないことがある。離床センサー内蔵ベッドを系列施設で導入しており、センサーの反応が良く誤報が少ないとの意見を聴取し、山県グリーンビレッジ経営会議内で検討をし、ユニット・従来型2階・3階とそれぞれ10台ずつ導入を計画することとなった。

【導入すべき機種】

・見守り支援ベッド

パラマウントベッド エスパシアシリーズ（離床センサー付きベッド）

ベッドにセンサーが内蔵されており、ナースコール中継ユニットを付属することにより、センサー反応時はナースコールが反応し、遠隔の職員に通知することができる。床に設置するマット型センサーに比べて、より正確な検知判定が可能になっており、誤作動が少ないとされている。また、ナースコールに発信するタイミングを変更する機能があり、さまざまな対象者に合わせた対応ができる。

【達成すべき目標】

ベッドから転落したり、立ち上がり時に転倒をしたりする危険性が高い利用者に使用することで、訪室回数が少なくなることで職員の見守りの頻度を減らすことができ、その分の時間を他の業務やコミュニケーションに充てたり、人員を見直すなどの業務改善につなげる。

【期待される効果】

- ・精度の高いセンサーを導入することで、居室内での利用者の危険に早く気付くことができ、転倒のリスクを減らすことが期待される。
- ・新規入所者の転倒リスク回避や行動分析に使用することで、職員が安心して対応することができるとともに、アセスメントツールとしての効果が期待される。